

令和元年度 清水みらい保育園 保育所自己評価

保育所保育指針において、保育士および保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。この事をふまえ、清水みらい保育園では保育の質の向上を図る為に、保育所の自己評価を実施しました。評価の結果を踏まえ今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎・・・よく出来ている ○・・・ほぼ出来ている △・・・努力が必要

(1) 保育理念

小分類	評価	評価の根拠、改善方法
子どもの最大の利益の考慮 ① 子供の人権の尊重 ② 保育方針・保育目標	△	児童憲章の理念や保育士の定義を述べる事ができないという自己評価が半数いた。昨年の自己評価から、自ら調べるという職員がみられないので、園として学び直す必要がある。

(2) 子どもの発達援助

小分類	評価	評価の根拠、改善方法
子どもの福祉を増進することにふさわしい生活の場 ① 養護 健康・安全で心地良い生活 ② 健康 子どもの主体的な生活 ③ 食事 人との関わりを育む環境	○	子どもに安心感を与えられるように、常に笑顔を忘れず気持ちに余裕をもって接したり、子供のありのままの気持ちを受け止めるよう心掛けた。子供のやりたい事を引き出したり子供の楽しいを感じとりながら過ごすことが出来た。共感することで次の遊びの広がりにもつながった。子供の生活リズムを整えるようにした。嫌いな物を無理強いすることをやめた。自分の意志で快適に食べられるように配慮した。家庭のように一緒に楽しく食べるようにした。子どもに対して穏やかな気持ちで話すようにしていたが、つい大きな声を出してしまうことがあったので、声の大きさと肯定的な関りと声掛けが来年度の課題となる。
生活の発達の連続性 ① 人間関係 子ども観・発達観の理解と共有 ② 環境 発達過程に応じた保育 ③ 言葉 個人差への配慮 ④ 表現 生活の連続性	○	異年齢の交流を自然な形で行ったことでそれまで泣いていた子どもと一緒に遊んだり散歩の時手をつなぐことができるようになった。発達に応じて子供たちの想いを受けて止め共有したり楽しい経験を一緒に積み重ね共感するようにした。保育室の環境は、子どもたちからの発信した玩具を用意し、遊びのコーナーづくりを行った。その中で、大人の都合ややりやすさが優先されてしまうことがあった。保育士の声の大きさについては個々で思案中である。また、保育士が子供のお手本となるよう言葉使いをすることを今後も継続していく。自分達が育てた野菜を生で食べたり、ゆでたり調理で使う出汁等の味比べを体験し食への興味関心を育てることができた。来年度も継続していく。
養護と教育の一体的展開 ① 乳児保育 ・主に乳児保育における養護と教育の一体展開 ・主に、2歳児における養護と教育の一体展開 ・主に3, 4, 5歳児の保育における養護と教育の一体展開	○	散歩に出かけたり屋上で伸び伸びと遊ぶ機会を設けて、身体づくりや季節の変化や自然を五感を通して感じるように関りを持つようにした。授乳時間や離乳食の進め方は、保護者と共有しながら個々に応じて丁寧に関わるようにした。離乳食の大きさや量等を見せながら保護者との共有に努めた。連絡ノートに子供の姿を写真をのせ、10の姿を保護者に伝え保育士も日々の保育の省察を行った。遊びが学びという事を職員自身も日々学び視覚化していくことが課題となる。
環境を通して行う保育 ① 長時間保育・延長保育 ② 障害児保育 ・保育の環境 ・環境構成、再構成	○	不安な気持ちが強く成らないよう気持ちを受け止めながら安心して過ごせるようお部屋の環境と雰囲気を作り一緒に楽しく遊ぶようにした。保護者への伝達事項を書面にし、口頭で分かりやすく確実に伝える様にした。発達年齢に合わせて、遊ぶ空間を分けたり年上の子に手伝ってもらい家庭的な雰囲気ゆったり過ごせるようにした。家庭と連携しながら、リハビリの様子を見学してもらいサポートプランをもとに共通理解を図る重要性を学んでいる。個々に応じた対応の学びを行っていく必要がある。

令和元年度 清水みらい保育園 保育所自己評価

(3) 保護者に対する支援

小分類	評価	評価の根拠、改善方法
①家庭との緊密な連携 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長の喜びを共有 保育内容の説明、応答責任 子育てに関する相談、援助 保護者への個別支援 	○	子どもの様子、経験していること成長を伝えていき、行事でもその様子を見たいという気持ちになるように伝えた。また、行事等では、早くから保護者に声を掛け、意図や内容についてその都度丁寧に説明し理解を図っていくようにした。 園での様子を伝え家庭での様子も聞き、協力しあえるようにする保育参加会で、個別面談を希望する方と行ったり、保護者からの個別相談等はその都度実施した。 保護者の気持ちに添えないこともあり、さらにきめ細かに支援の方法等を考えていくことが課題となる。
②地域における子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> 保育所の機能の開放 関係機関との連携 情報提供 	△	一時預かりを実施している中で、保護者様からの子育てについての悩みや質問にこたえる形で支援を行っている。 月に1回のおしゃべりサロンではタッチケアを実施。 家庭でも出来る遊びや歌の提供をしている。 園庭解放をしているが、地域へ浸透していないため利用者はごくわずかとなっている。 園の行事は写真やホームページに載せて開示している。 小学校との接続は、1年生を迎える会の見学に参加できたが、学校見学等はコロナの影響で実施できなかった。

(4) 保育を支える組織的基盤

小分類	評価	評価の根拠、改善方法
①健康および安全の実施 <ul style="list-style-type: none"> 健康の保持および運営 安全、衛生管理 家庭や保健・医療機関との連携 	△	日々の検温と触診を欠かさないようにした。 不審者訓練を実施し、今までの訓練方法の見直しと訂正をすることが出来た。大人が子供の命をまもることと子ども自身も不審者から身を守る術を知る機会となった。(年長) コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、手洗いうがいの見直し。保護者や部外者の手指消毒の徹底と、感染症(インフルエンザ等)の掲示をより見やすい場所へ変更した。 救命方法と感染予防のマニュアルの見直しと職員研修がまだ、不十分であると感じる。
②職員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> 保育計画 保育士の自己評価 研修 	△	クラス会議の時間を毎週金曜日の昼に設定しているが、クラスによって保育の振り返りや話し合いではなく、情報交換のみで終わってしまった。 保育士の自己評価は、年度末以外に他の方法で行った。 園内研修では、個々の意見を言える雰囲気になり思いを語れるようになっているが、保育の本質の所を言語化して共通理解をしたり分からないことをそのままにする姿勢の職員と自ら学びを深めようと努力する職員との温度差が浮き彫りになっている。 外部研修報告を職員会議の中で行い、研修内容を共有に努めた。
③運営・管理、社会的責任 <ul style="list-style-type: none"> 法令等の遵守 個人情報の取り扱いと苦情解決の責任 施設長の責務 	△	今年度は、運動会に台風が直撃した為に中止の判断となった。 理由としては、例年雨でも晴れでも予定した日程で実施できるように場所を借りて予備日を設けていなかったためである。 来年度は、延期も考え日程及び場所の確保をする。 複数の苦情がありその都度、原因を解明し職員への教育を行い役所にも事故報告を行った。職員全員に倫理観等の再教育を行い社会の動向に目を向けるようにしていく。 また、施設長自身が法令、保育に関わる倫理等を正しく理解すると共に保育運営等の課題を自覚し保育所全体の保育の質の向上に努めていく。

令和元年度 清水みらい保育園 保育所自己評価

園全体の評価

「子どもの姿から環境を考える」というテーマでの園内研修の場では、職員同士が自分の考えを安心して発信できるような雰囲気ができている。子どもに対しては、押し付けの言葉使いや大きな声での指示を出さずに肯定的な言葉かけをするように職員一人ひとりが気を付けるようになってきているが、まだ温度差が見られている。子ども主体の保育を他園から学ぶために視察研修へ行った職員からの報告から刺激を受けて自らの保育を見直す良いきっかけとなったが、そこでも、個々の感じ方が異なり保育がうまくいかない事が出てくる等、メリットとデメリットの狭間で悩み多き1年だった。また、保育以外の社会的常識・倫理観の欠如がみられ、改めて保育の世界以外にも保育者自身が興味関心を持って生活を過ごす重要性を感じた。保育者が子供との接し方や保育室の環境、保育の内容を工夫するようになり子供の姿に変化が見られているが、まだ、大人の顔色を伺ったり一つ一つ「やってもよいか」と確認をしなければ次の行動に移せないという姿が多くみられている。

自然災害の影響で、運動会が中止になったり新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった行事があった。予測できない事態への対応の難しさと準備不足という問題点が浮き彫りになった。新しい保育をみんなで考えて進む中で、子どもの事をよく見て考えるようになり、保育園全体の雰囲気が穏やかに変わり始めている。

今後の課題

年間行事を組む時に自然災害の事を念頭に入れ予備日を決め、新型コロナウイルス感染症への対応も慌てないように事前に予測をして備えることを職員の共通理解のもとに準備をしていくこと。「子どもの姿から環境を考える」というテーマで引き続き園内研修を進め、保育者自身が柔軟な心を育て新しい保育に向かって自らが学び実践していく力を育てほしい。保育の質とはその人の人間性を磨くことにもなるので、保育以外にも目を向けて自分磨きができるよう仕事量や時間量が適正になるように、業務の見直しを引き続き行っていく。また、職場の人間関係が円滑になるように会議の持ち方や会議の内容の見直し、職員一人ひとりを受容できるような雰囲気づくりを行う。また、保護者も保育を共にする仲間として保育への参加をし、清水みらい保育園の保育の良さを実感できる場作りも考えていきたい。